

パーフェクトポート

海とポート&ヨットのスタイルマガジン

Perfect BOAT & YACHT

YACHT

CAR

TRAVEL

WATCH

FASHION

CUISINE

LIFESTYLE

SIRENA 58

3

MAR. 2019



CHASER 500R / PRIVILEGE Euphorie 5 / TARGA 37 / Marina Guide 2019

NEW WORLD

SIRENA 58

2006年創立の「SIRENA MARINE(シレーナ)」は、世界で最も著名なレーシングヨット・クルージングヨットのデザイナーの一人であるGerman Frers(ジャーマン・フレール)を筆頭に、Tommaso SpadoliniやRob Humphreys、Giovanni Ceccarelliなど一流デザイナーを起用し、プロダクションセーリングボート「Azuree」や、オーシャンクルージング用のセーリングヨット「Euphoria」を建造。わずか10年足らずでヨーロッパを代表するセーリングボートビルダーに成長した。そして2016年、ついにモーターヨットブランド「SIRENA」を発表。German FrersのチーバルアーキテクトとTommaso Spadoliniのインテリアデザインが描く先進デザインにより、モーターヨットの世界でも注目を集めている。

text: Yoshinari Furuya photo: Jeff Brown, SIRENA MARINE
special thanks: special thanks: SIRENA MARINE www.sirenayachts.com
SHONAN SUNNY SIDE MARINA www.sunnyside.co.jp





アをデザインしたのは、German Frers率いるFrers Naval Architecture & Engineering。デザインの特徴は、垂直のパウステムに垂直のフロントウィンドシールド。スクエアに見えるサイドビューは、ヨーロッパスタイルのロングレンジトローラーのトレンド。それは単にスタイリングだけでなく、垂直のステムが生み出す水線長の長さが、セミディスプレイメントハルの燃費を向上させる。さらにマテリアルにGRPとカーボンのハイブリッドファイバーを使い、インフュージョン工法で成形することで、高剛性かつ軽量の船体を実現。German Frersにより与えられた効率の良いボトムデザインが生きる、低燃費で高いシーワージネスの、ロングレンジトローラーが完成した。

*

乗船は、油圧で上下する大きなスイミングステップから。丸みを帯びたハルの最後尾が印象的だ。トランサムボードも上に行くにしたがい後方に丸くせり出し、アフトデッキを広くする。スクエアなスタイリングにラウンドしたトランサム周辺。この柔らかなデザインが「SIRENA 58」のキャラクターの一つでもある。

シンメトリックな左右4段のステップを上がると、眺めの良いアフトデッキ。後方にはトランサムと一体の4人がゆったりと座ることができるソファ。そして、左右2つに分かれたチークトップの折りたたみテーブルは広げれば1つにつながり、広いテーブルとなる。アフトデッキの左右、切り込まれたハルにはドアがつき、離着岸の作業や、岸壁からの乗り降りを楽にしてくれる。

キャビンドアは大きく開閉。アフトデッキからキャビン内のフローリングにフラットに連続するアフトギャレー。入ってすぐ右舷側にはL字のギャレー。左舷側にはフロントローリングの大型の冷蔵庫。多少濡れていてもギャレーに入ることができるアフトギャレーは、ファミリーユースのサロンクルーザーに人気のレイアウト。一段上がり視認性の良いサロン中央には、一体感のあるラウンジスペース。大型のスクエアな窓は、視点が高いだけではなく、窓の位置が相対的に低くなり、ホテルや住宅にいるような陸の感覚に近い。それは、ボートが苦手なゲストを安心させてくれる。パウ側には同じ高さのフロアがそのまま続き、左舷側のヘルムステーション

しくはない。新しいマイボートでのワンウェイの地中海クルーズは、大いなる楽しみをもたらすに違いない。「SIRENA MARINE」が、トルコを代表する世界的なボートビルダーとして、伝統ある西ヨーロッパのヨットビルダーをも脅かす存在となったのは、偶然ではなく必然だったのだ。

*

ビルダーの名をそのまま冠したモーターヨットブランド「SIRENA (シレーナ)」のファーストプランが発表されたのは、2016年のこと。翌2017年には、German FrersとTommaso Spadoliniデザインによる「SIRENA 64」と「SIRENA 56」がワールドプレミアを果たし、一気にブレイク。そして昨年、2018年のカンヌヨットフェスティバルでは、3モデル目となる「SIRENA 58」がワールドプレミアを果たし、「SIRENA MARINE」の勢いは増すばかりだ。

「SIRENA 58」のコンセプトやスタイリング、ハルデザインやエクステリ



有名ビルダーのOEM生産によりスキルとクオリティを高めた「SIRENA」 世界一流のデザイナーによる最新のフォルムとテクノロジーが、新たなトレンドを創造する

近年、ヨーロッパの新興ボートビルダーの中でポーランドと並び注目を集めているトルコ。もともとトルコは、地中海東部の港を持つ工業国として、商船やフェリー、ミリタリーなど、コマーシャルシップの造船をしてきた実績を持つ。人件費の安さを武器に、ヨーロッパの工場として大手ビルダーのボートやヨットをOEM生産にて数多く建造。イタリアの有名ヨットビルダーの一部モデルが、「SIRENA MARINE (シレーナ)」で建造されているのはよく知られている事だ。コストパフォーマンスが問われる大手ビルダーのプロダクションボートや、セーリングボートの価格競争力を、トルコの造船所が支えてきたのだ。

こうして大手ビルダーのクオリティコントロールのもと、長年にわたりサ

ロンクルーザーやメガヨットの生産をしてきたことで、トルコの造船所はそのノウハウと技術者のスキルを磨いてきた。そして力を蓄えたビルダーはすでに、OEMからの脱却を始めている。大手ビルダー譲りの建造能力に加え、一流デザイナーを起用し、オリジナルブランドのボートやヨットを建造。最先端のデザインを持つクルーザーは、コストパフォーマンスの高さもあり、ヨーロッパはもちろん世界各国でセールスを確実に広めている。

さらに、トルコの強さは人件費のメリットだけではない。地中海に面した造船所のロケーションにより、高額な SHIPPING や回航のコストを抑えることもアドバンテージ。インフラが整い、サマーシーズンには静穏な日が続く地中海だからこそ、トルコで引き渡し、カスタマー自身で回航することも難



カンヌで試乗したモデルとは雰囲気異なるインテリア。フローリングと木部に落ち着いたブラウン系をチョイス。ソファなどファブリックの縁にネイビーのバイピングでアクセント。クラシカルな組み合わせにより、重厚感漂う伝統のトロラースタイルに。

のフロアにつながっている。

ヘルムはフリップアップのシングルシート。サイドウィンドシールドの一部には黒いフレームで認識できるスライド式のオープンウィンドウ。通路を挟んだ右舷側には、サイドデッキとアクセスできるスライドドア。離着岸時の作業性は高く、ショートハンドでも扱いやすい。また、オーナーやクルーが、ゲストのいるサロンを通らずキャビンを行き来できる動線も使いやすい。

アコモデーションもヨットクラスと変わらないクオリティ。回廊を降り、突きあたりを右に行くと、正面パウバースがVIPルーム。アイランドベッドの

左右にある大きなサイドウィンドウから光が溢れ、輝く海が見える。スターボード側には広く明るいトイレと独立したシャワーブース。ポート側、すぐ後方にはツインのゲストルーム。ゲストルーム側と通路側に2つの扉があるのでデイベッドとして使いやすい。そして、ステップを降りたミジップには、フルビームのマスターステートルーム。ポート側にはテーブルとチェア。天板を開くと鏡が現れパウダーテーブルに。スターボード側にはソファ。パウ側には広い洗面台を持つトイレとシャワーブース。バランスの良い素材と色の組み合わせにより、一流ホテルのような質感。クラスを超えた上質な空間とインテリアデザインは、Tommaso Spadolini 率いる Design



アコモデーションも充実。ミジップのフルビームを使ったマスターステートルームにはワーキングテーブルとツインのソファ、広いヘッドルームが備わる充実のアコモデーション。パウのVIPルームにも専用のヘッドルーム。ツインのゲストルームには、デイベッドと兼用のヘッドルーム。専用ドアでアクセスすることができる。各部屋毎にヘッドルームが備わり、プライバシーが守られている。80

Studio Spadolini のもの。トレンドをおさえ、オリジナリティもあるインテリアは「SIRENA MARINE」の高い評価につながっている。

サイドスライドドアからサイドデッキを通り、パウデッキへ。垂直のフロントウィンドシールドが、クラスを超えた広くフラットなパウデッキを可能にする。ラウンジソファとサンベッド。カーボンポールを立ててオーニング

を張れば、プライバシーの高いテラス席となる。

フライブリッジのデザインにも、デザイナーのアイデアが随所に盛り込まれている。ステップを上ると正面にコンソールボックス。スタンダードは、安全備品などを入れるのに丁度良いストレージ。その前方、左舷側にはヘルムスーション。純白のステアリングホイールが、地中海的な印象。右



はトルクフルな加速と20ノットを超えるスピードで、トローラーと感じさせないスポーティな乗り味も併せ持つ。German Frersのボトムデザインが、ロングレンジトローラーを進化させる。

*

そして、昨年ワールドプレミアを果たしたばかりのこのロングレンジトローラーが、なんと、今年3月のジャパン・インターナショナル・ボートショーに出展される。インポーターは横須賀市芦名の美しい相模湾に抱かれた「湘南サニーサイドマリーナ」。一流のデザインとサロンクルーザーの豊富な建造経験から生まれた珠玉のサロンクルーザー「SIRENA 58」が、地中海から湘南の海に舞い降り、この日本にクルーザーの新たなトレンドを創り出す。 **P.B.**

SIRENA 58

全長 18.58 m
全幅 5.36 m
喫水 1.24 m
重量 28 ton
エンジン 2× CATERPILLAR C8.7
最高出力 2× 650 HP
燃料タンク 3,600 L
清水タンク 770 L
スピード Max 27-30 kt
問い合わせ先 **湘南サニーサイドマリーナ** TEL: 046-856-7810
www.sunnyside.co.jp



vimeo

Instagram

舷側にサンタンベッド。その後方にはL字のソファ。サンタンベッドに背もたれを設置すれば、U字のラウンジソファの一部になる。

後方中心線上には、「SIRENA 58」デザインの象徴となるマスト。ハードトップを支えるとともに、レーダーポールの役目もする。船体とのバランスが絶妙に良いこのマストには、シャワーもインサートされている。その後方はメガヨットのようにサンベッドを置くスペース。また、マストのすぐ横にはもう一つのコンソールボックス。天蓋を開けると、そこには



ステアリングとの距離や角度など、自然なドライビングポジションでストレスを感じない。ジョイスティックのポジション、モニターの角度など細部に渡り計算されている。

BBQグリルとミニシンク。フライブリッジのパーティーを盛り上げてくれる。その下の扉を開けると冷蔵庫。日焼けで火照った体には、冷えたドリンクと、すぐ目の前のシャワーでクールダウン。周りの視線を集めるフライブリッジのサンタンベッドとシャワーが、贅沢な気分させてくれるはずだ。

狭いカンヌの港内をジョイスティックで簡単にすり抜ける。パワートレインはスタンダードエンジンのCAT C8.7 (650馬力) ×2 基に、マリンギアはZF 325 IVのVドライブ。オプションでCAT C12.9 (850馬力) をチョイスすることもできる。ジョイスティックはシャフトとバウスラスターを制御するタイプ。

スロットルを上げていく。波高は0.5mから1mほど。回転計が1,000回転を指すと8.7ノット、1,500回転で13.4ノット、2,000回転では19.5ノット。シャフト艇特有の低回転の太いトルクでストレスなく加速する。

クルージングスピードは16ノット、トップスピードは27ノットのデータが公表されている。決して速い方ではないが、ロングレンジトローラーとしては十分すぎるボートスピードだ。また、燃費効率の良い10ノットでは、セミディスプレイメントのボトムデザインが生かされ、ノーズアップすることなくスムーズに走行。時間あたりの消費燃料はたった38L。標準の3,600Lの燃料タンク容量で、およそ850マイル走行できる計算となる。

クルーズスピードでのハンドリングを試みる。PODドライブとは違うVドライブだが、前後バランスが良く、素直にイメージ通りに小半径で旋回する。水線長を伸ばした鋭角なバウステムは水を切り、抵抗を感じさせない。高剛性のハルにより波あたりもソフトで叩かない。また、バウで上がる引き波はチェーンでしっかりと落とされ、バウデッキやフロントウィンドシールドはドライ。そして、「SIRENA 58」は、トローラーにして